誌上公開
～紙芝居の名作～

少年イーグル ドクロの眼 8

カタ　コウジ　作・画
山崎　白楓　　着色
新日本画劇社

❸（覆面）「さあ、歩け！！」とイーグルを隠れ家へ連れて行くのだった。
そのとき、ノッシ、ノッシ！！地響きをたてて現れた一匹の大きな象が、

❼それから、象の背中に乗ると、
（チーター）「キャッキャッ、こいつはおもしろいぞ。イーグルさんの大活躍が始まりはじまり」
チーターも喜んで象の背中に乗って、

❹いきなりイーグルの体を大きな鼻で巻き上げてしまった。
（覆面）「あ、象だ…」
（覆面）「イーグルをさらって行くぞ…」
（覆面）「撃ち殺してしまえ！！」
あわてた覆面たちは、

❽ドクロ岩に近づいてきた。
（チーター）「キャッキャッ、イーグルさん、いよいよドクロ岩に近づきましたよ…」
（イーグル）「チーター、油断するなよ」と注意深く近づいて行くと…。
が、それとも知らないドクロの目は、

❶（ドクロの目の手下・覆面）「おい、動くな。動くと撃つぞ…」
いつのまにかドクロの目の手下の覆面たちは、イーグルとチーターを取巻いてしまった。
（チーター）「キャッキャッ、イーグルさん、助けておくれ…」
チーターはあわてて叫んだが…。

❺ダ、ダーン、ダーン。さかんにピストルを撃つが、「ウォーツ！！」
イーグルを助けようとした象は、覆面たちを大きな足で踏みつぶしたり、蹴り倒してしまった。

❾手下の覆面たちを集めて、（ドクロの目）「おい、皆。いよいよ今夜、連絡の者が空から来ることになっているぞ」と話していた。
夜になると、果たして何者が来るのでしょう。やがてドクロ岩のあたりも日が暮れて、

❷さすがのイーグルも大勢にピストルを持って囲まれてはどうすることもできず、とうとう捕まってしまった。
（覆面）「よし、こいつを縛って、隠れ家へ連れて行け」とグルグルと縄で縛ると、

❻（イーグル）「おお、象か、ありがとう。お前のおかげで助かったぞ」と喜んだ。
イーグルは、「これからお前に乗ってドクロ岩へ行こう。ひとつ頼むぞ・・・。まず、この手の鎖を切ってくれ」
象の鼻に鎖を引っ掛けて、エイーツ。パチンと切れた。

❿夜も更けたころ、ブルーン、ブルン、ブルン。爆音高く現れた一台のヘリコプター。
果たして何者が乗っているのでしょう。そして、少年イーグルの活躍はいかに。

作者／加太 こうじ（カタ コウジ 1918-98年）松永武雄から引き継いだ『黄金バット』など多数の作品を手がけ、紙芝居界の第一人者として活躍した。
（宮城県図書館所蔵　著作権者 掲載承認）

インタビュー

紙芝居の力を信じて

●仙台で紙芝居を制作し、実演している、**ときわひろみ**さんに紙芝居の魅力をお聞きしました。

今から25年ほど前、自宅で主宰する「子ども文庫」で子どもたちに見てもらいたくて、紙芝居を演じ始めました。物語が進むにつれてくるくると変わる子どもの表情を見るうち、演じるだけでなく、自らも描くようになりました。

演じ手が心を込めて語りかけ、絵を引き抜くごとに、観客はお話の世界に引き込まれていきます。次の場面、演じ手が発する最初の言葉に期待が集まる瞬間は、紙芝居ならではのものでしょう。観客の反応を確かめ、共感しながら語る紙芝居は、演じ手と観客の自由な心の交流を生み出しています。

読書が嫌いな子どもでも、紙芝居となると夢中になる――そんな風景を現実のものとする、紙芝居の力に魅かれて演じ続けています。

また“かつて子どもだった”大人へ向けて、社会人学級や市民センター、病院や介護施設などでも上演しています。紙芝居の楽しみ方は、子どもも大人も変わりません。特に年配の方たちにとっては、紙芝居が懐かしい記憶を呼び覚まし、思い出話のきっかけとなることもあります。

紙芝居の魅力は、演じ手と観客が同じお話の世界で共に楽しむことにあります。人と人との関係性が希薄と言われる時代ですが、紙芝居を通して“言葉と心のキャッチボール”を続けていきたいと思っています。（談）

ときわひろみ（常盤洋美）　紙芝居作家。福岡県生まれ。1983年『おじいさんのできること』で高橋五山賞特別賞を受賞。「みやぎ紙芝居の会」主宰、泉区在住。

自作の紙芝居を実演する、ときわさん

《叡智の杜》レポート　「きらめく叡智と美のしずく展 in松島」を開催しました

平成19年5月26日（土）、松島町中央公民館において、平成19年度図書館振興講演会を開催しました。この講演会はより多くの方々に読書活動の重要性や図書館の意義などについて理解していただき、利用促進を図ることを目的として、松島町及び宮城県図書館が主催したものです。講演会にあわせて、「きらめく叡智と美のしずく展in松島」と題して、宮城県図書館で所蔵している貴重書のレプリカ展示を行いました。

イタリア人宣教師によって作成された『坤輿万国全図』の他，会場となった松島町に深くゆかりのある“海”をキーワードに、鳥類・魚類の図譜『禽譜』『魚蟲譜』から「ワシカモメ　オオセグロカモメ」「マンボウ」「シロシュモクザメ」「ペンギン」「スッポン」などを展示しました。水族館などでおなじみの魚類や，姿形がユーモラスな動物の図譜は，来場者の注目を集めました。